幕末の志士達が駆け抜けた箱館 ～土方歳三 散華の道～

所要時間 100分　距離 4.1km　消費カロリー 300kcal　※消費カロリーはおおよその目安です。

スタート! 五稜郭公園前電停
函館駅前から3.1km 市電／16分 徒歩／42分
800m 15分
1 特別史跡五稜郭跡
90m 2分
2 五稜郭タワー
1200m 20分
3 中島三郎助父子最後の地
330m 6分
4 千代ヶ岡陣屋跡
1,700m 30分
5 土方歳三最期之地碑
ゴール!!

1 特別史跡五稜郭跡

五稜郭跡は、西洋式土塁で幕末の箱館開港に伴い移転された箱館奉行所が置かれた。箱館奉行支配諸術調所教授役で蘭学者の武田斐三郎により、中世ヨーロッパの城塞都市を参考として設計され、稜堡と呼ばれる5つの突角をもつ星形の土塁が巡らされていることから「五稜郭」の名がつけられた。明治元年（1868）10月に榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が占拠、翌明治2年（1869）5月に終結する箱館戦争の舞台となった。

2 五稜郭タワー

五稜郭タワーの展望台からは、五稜郭跡の全景はもちろんのこと、五稜郭築城の際に松川弁之助が造ったまっすぐに伸びている道（旧松川街道）を眺めることができる。

開館 4月21日～10月20日 8:00～19:00（その他の期間9:00～18:00）
入場料 大人840円 休 年中無休

3 中島三郎助父子最後の地

箱館戦争当時、中島三郎助は、箱館奉行並として千代ヶ岡陣屋を守備していた。新政府軍が箱館を制圧し、降伏勧告をしたが、最後まで拒絶し続け、息子2人と共に戦死した。

中島廉売

昭和9年頃に形成された100店舗余りからなる商店街で、全国的にも珍しい通年営業の露店がある。安さと新鮮さで親しまれている「市民の台所」。

4 千代ヶ岡陣屋跡

現在の中島小学校付近から千代台運動公園にかけた一帯は、津軽藩が築いた陣屋であった。箱館戦争時、新政府軍の攻撃により中島三郎助父子らが壮絶な最期を遂げ、この陣屋は陥落した。現在、中島三郎助父子に因んで、千代ヶ岡陣屋のあった付近が中島町と命名されている。

5 土方歳三最期之地碑（一本木）

新撰組の副長として、京都で勤皇の志士たちを震え上がらせた土方歳三が戦死したといわれる場所（土方が戦死した場所は諸説ある）。榎本武揚率いる旧幕府脱走軍に合流した土方は、明治2年（1869）市街を制圧した新政府軍を相手に激しく戦い、馬上で幾多の銃弾をうけ壮絶な戦死を遂げたといわれる。昭和33年（1958）にこの石碑が建立されて以来、全国から土方ファンが訪れ、いつも花が絶えることがない。

土方歳三（1835～1869）

天保6年（1835）武蔵国（東京都）生まれ。近藤勇らとともに新撰組を結成。仙台で榎本らと合流し旧幕府脱走軍では陸軍奉行並となる。明治2年（1869）5月11日箱館総攻撃の際、孤立した弁天岬台場を助けに向かう途中、一本木関門付近（現若松町）で銃撃をうけ35年の生涯を閉じたと言われている。（土方戦死の場所は一本木のほか諸説がある。）

※写真提供／函館市中央図書館